

(様式第 10)

琉大医総第 1210号
平成30年10月

厚生労働大臣

殿

国立大学法人 琉球大学
学長 大城

琉球大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
氏 名	国立大学法人琉球大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

琉球大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207	電話(098) 895 - 3331
------------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1呼吸器内科		
2消化器内科		
3循環器内科		
4腎臓内科		
5神経内科		
6血液内科		
7内分泌内科		
8代謝内科		
9感染症内科		
10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		
11リウマチ科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/>	有	無
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	<input checked="" type="checkbox"/> 6心臓血管外科	7内分泌外科	8小児外科
診療実績			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 1精神科	<input checked="" type="checkbox"/> 2小児科	<input checked="" type="checkbox"/> 3整形外科	<input checked="" type="checkbox"/> 4脳神経外科	<input checked="" type="checkbox"/> 5皮膚科	<input checked="" type="checkbox"/> 6泌尿器科	7産婦人科
<input checked="" type="checkbox"/> 8産科	<input checked="" type="checkbox"/> 9婦人科	<input checked="" type="checkbox"/> 10眼科	<input checked="" type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科	<input checked="" type="checkbox"/> 12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		<input checked="" type="checkbox"/> 15麻酔科	<input checked="" type="checkbox"/> 16救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/>	有	無
歯科と組み合わせた診療科名			
1小児歯科	2矯正歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 3口腔外科	
歯科の診療体制			

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 神経科	2 呼吸器科	3 消化器科	4 循環器科	5 病理診断科	6 形成外科	7 リハビリテーション科
8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20
21						

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	6床	4床	床	550床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	377人	14人	383.0人	看 護 補 助 者	72人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	20人	4人	21.8人	理 学 療 法 士	16人	臨床検査技師	42人
薬 剤 師	38人	1人	38.7人	作 業 療 法 士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	30人	0人	30.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	607人	19人	621.7人	臨 床 工 学 士	19人	医療社会事業従事者	0人
准 看 護 師	0人	1人	0.7人	栄 養 士	0人	その他の技術員	47人
歯科衛生士	4人	0人	4.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	133人
管理栄養士	9人	0人	9.0人	診 療 放 射 線 技 師	34人	そ の 他 の 職 員	149人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	28人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	25人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	14人
精 神 科 専 門 医	6人	放 射 線 科 専 門 医	14人
小 児 科 専 門 医	13人	脳 神 経 外 科 専 門 医	6人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整 形 外 科 専 門 医	19人
泌 尿 器 科 専 門 医	6人	麻 酔 科 専 門 医	23人
産 婦 人 科 専 門 医	16人	救 急 科 専 門 医	5人
		合 計	194人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (藤田 次郎) 任命年月日 平成29年 4月 1日

医療安全管理委員会構成員
 医療安全調査委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	500.1 人	16.7 人	516.8 人
1日当たり平均外来患者数	1109.3 人	69.8 人	1179.1 人
1日当たり平均調剤数	867.0 剤		
必要医師数	118.0 人		
必要歯科医師数	6.49 人		
必要薬剤師数	18.0 人		
必要(准)看護師数	300 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	163.07m ²	鉄筋コンクリート	病床数	8床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	【固定式の場合】床面積 54.25 m ² 【移動式の場合】台数 0 台		病床数	6 床		
医薬品情報管理室	【専用室の場合】床積 m ² 【共用室の場合】共用する室名		医薬品情報室・薬剤部員室			
化学検査室	350.60m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動蛍光免疫測定装置			
細菌検査室	126.94m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動迅速同定感受性測定装置			
病理検査室	151.73m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 脱水・脱脂パラフィン浸透装置			
病理解剖室	58.44m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) SL写真撮影装置			
研究室	6101.00 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) HSオールインワン蛍光顕微鏡システム			
講義室	525.91m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	室数	2 室
図書室	807.00m ²	鉄筋コンクリート	室数	5 室	室数	5 室

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	78.8%	逆紹介率	55.1%
算出根拠	A：紹介患者の数	11,812人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,902人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	918人	
	D：初診の患者の数	16,158人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗原 慎太郎	長崎大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
赤嶺 真也	赤嶺法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
儀間 小夜子	NPO 法人こども医療支援わらびの会		医療を受ける立場にある者	有・無	2
矢野 恵美	琉球大学 大学員法務研究科		学長が必要と認めた者	有・無	1
嘉目 克彦	琉球大学		学長が必要と認めた者	有・無	3
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 大学公式ホームページ及び病院公式ホームページでの公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	11人
前眼部三次元画像解析	99人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ種(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限り。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	22
2	筋萎縮性側索硬化症	7	57	特発性拡張型心筋症	26
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	3
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	8	60	再生不良性貧血	16
6	パーキンソン病	43	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	22
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	32	66	IgA腎症	61
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	18
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	34	68	黄色靭帯骨化症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	5	69	後縦靭帯骨化症	34
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	11
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	64
17	多系統萎縮症	8	72	下垂体性ADH分泌異常症	12
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	7	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	15	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	7	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	10	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	17
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	58
24	亜急性硬化性全脳炎	5	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	10	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	4	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	50
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	6
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	12
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	16
34	神経線維腫症	14	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	40	90	網膜色素変性症	38
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	14	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	46
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	16	95	自己免疫性肝炎	8
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	123
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	114
43	顕微鏡的多発血管炎	14	98	好酸球性消化管疾患	4
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	2	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	30	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	112	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	54	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	84	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	10	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	14	108	TNF受容体関連周期性症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

54	成人ステル病	0	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9
113	筋ジストロフィー	3	163	特発性後天性全身性無汗症	6
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	5	167	マルファン症候群	5
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソス症候群	1
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	3	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	2	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	14	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	クルツェス・フルンク病(主和腸管又は小腸型)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	2
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性隣炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ボルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	5

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診科	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般:7:1、精神:13:1、結核:7:1)	・呼吸ケアチーム加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科(基幹型)・歯科(単独型))	・後発医薬品使用体制加算2
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・データ提出加算2
・診療録管理体制加算1	・入退院支援加算1(入院時支援加算)
・医師事務作業補助体制加算1(25対1)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者 5割以上)	・精神科急性期医師配置加算
・看護補助加算2(精神病棟)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料1 (早期離床・リハビリテーション加算)
・重症者等療養環境特別加算	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算1	・新生児特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・緩和ケア診療加算(個別栄養食事管理加算)	・小児入院医療管理料2(プレイルーム加算)
・精神科応急入院施設管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1 (感染防止対策地域連携加算・抗菌薬適正使用支援加算)	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・抗HLA(スクリーニング検査)及び抗HLA(抗体特異性同定検査)
・植込型除細動器移行期加算	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・高度難聴指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅱ)
・がん患者指導管理料イ	・国際標準検査管理加算
・がん患者指導管理料ロ	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料ハ	・植込型心電図検査
・外来緩和ケア管理料	・時間内歩行試験
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・シャトルウォーキングテスト
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・小児運動器疾患指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・乳腺炎重症化ケア・指導料	・光トポグラフィー検査
・院内トリアージ実施料	・神経学的検査
・外来リハビリテーション診療料	・補聴器適合検査
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節生検(片側)(単独法)
・がん治療連携管理料	・センチネルリンパ節生検(片側)(併用法)
・認知証専門診断管理料	・画像診断管理加算3
・肝炎インターフェロン治療計画料	・遠隔画像診断
・排尿自立指導料	・ポジトロン断層撮影
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料1	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料2	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・心臓MRI撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・頭部MRI撮影加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算	・無菌製剤処理料
・造血器腫瘍遺伝子検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・遺伝学的検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)

・精密触覚機能検査	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・経皮的中隔心筋焼却術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・がん患者リハビリテーション料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・集団コミュニケーション療法料	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療保護入院等診療料	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・硬膜外自家血注入	・両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器交換術
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・導入期加算1	・補助人工心臓
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・経皮的大動脈遮断術
・一酸化窒素吸入療法	・ダメージコントロール手術
・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術	・腹腔鏡下肝切除術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(皮膚悪性腫瘍切除術の加算)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜仮装剥離術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)	・同種死体腎移植術
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	・生体腎移植術
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・仙骨神経刺激装置植込術及び交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下仙骨髄固定術
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・網膜附着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・網膜再建術	・胃瘻造設術
・人工中耳用材料	・輸血管管理料Ⅱ
・人口中耳植込術	・自己クリオプレシペート作成術(用手法)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療に限るものに限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療に限るものに限る)	・歯周組織再生誘導手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1(乳腺悪性腫瘍手術の加算)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2(乳腺悪性腫瘍手術の加算)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳病切除後)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・経皮的冠動脈形成術	・放射線治療専任加算
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・外来放射線治療加算
・経皮的冠動脈ステント留置術	・高エネルギー放射線治療

・経カテーテル大動脈弁置換術	・1回線量増加加算
・強度変調放射線治療(IMRT)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・CAD/CAM冠
・1回線量増加加算(前立腺照射)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他のもの)	・歯科矯正診断料
・直線加速器による定位放射線治療	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・保険医療機関間の連携によるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作成	・
・保険医療機関間の連携によるデジタル病理画像による迅速細胞診	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・硬膜外自家血注入療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・病理部症例検討会 16 回/ 【病理部】 ・検査・輸血部症例検討会 109 回/ 【検査・輸血部】
剖 検 の 状 況	剖検症例数 19 例 / 剖検率 10.1 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
動物脂肪依存の脳内分子機構と米ぬか由来機能成分γオリザノールの治療的意義の解明	益崎 裕章	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	198,710	補 委	日本学術振興会 科研費
潜伏感染ウイルスが関与するリンパ系腫瘍の発症と進展におけるHLAの意義の解明	森島 聡子	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	186,000	補 委	日本学術振興会 科研費
脂質メディエーターに着目した多発性嚢胞腎病態生理に基づく疾患特異的治療の開発	中西 浩一	育成医学講座	662,890	補 委	日本学術振興会 科研費
抑うつ性混合状態の定量的診断と生物学的背景の検討	近藤 毅	精神病態医学講座	621,117	補 委	日本学術振興会 科研費
放射線照射による認知機能低下における高気圧酸素併用療法の神経保護作用機序の解明	片桐 千秋	脳神経外科学講座	680,347	補 委	日本学術振興会 科研費
沖縄県の難聴患者における効率的難聴遺伝子診断の構築	我那覇 章	耳鼻咽喉科	988,494	補 委	日本学術振興会 科研費
ヒト乳頭腫ウイルス関連頭頸部癌の診断及び予後に関与するバイオマーカーの解明	鈴木 幹男	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	1,272,628	補 委	日本学術振興会 科研費
DNA修復酵素遺伝子多型解析による頭頸部癌治療の効果予測	平川 仁	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	1,565,451	補 委	日本学術振興会 科研費
HPV関連癌に対する新規樹状細胞ワクチン治療の有効性の検証	上原 貴行	耳鼻咽喉科	1,312,512	補 委	日本学術振興会 科研費
小児悪性軟部腫瘍におけるFOXO1と主要なシグナル伝達経路の標的分子としての評価	久田 正昭	第一外科	947,279	補 委	日本学術振興会 科研費
抗癌剤曝露依存的に活性化されるEphA4を標的とした新規治療戦略の構築	喜名 振一郎	顎顔面口腔機能再建学講座	974,100	補 委	日本学術振興会 科研費
コラーゲン遺伝子多型に着目した骨盤臓器脱高リスク発生群の選別化と早期リハビリ介入	芦刈 明日香	腎泌尿器外科	714,050	補 委	日本学術振興会 科研費
ビタミン・ミネラルによる皮膚の恒常性維持と、その欠乏による皮膚症モデルの病態	山口 さやか	皮膚科	1,700,000	補 委	日本学術振興会 科研費
子宮頸癌における中央遮蔽、腔内照射線量を考慮したリスク臓器の耐容線量の同定	有賀 拓郎	放射線科	735,890	補 委	日本学術振興会 科研費

小脳歯状核へのガドリニウム沈着が、巧緻運動機能、高次脳機能へ及ぼす影響	與儀 彰	放射線部	1,324,386	補委	日本学術振興会 科研費
肺胞細胞における遠隔虚血プレコンディショニングのメカニズム	和泉 俊輔	麻酔科	1,900,000	補委	日本学術振興会 科研費
インフルエンザ治療薬のシアリダーゼ阻害効果に着目した腎細胞癌の新規治療法の開発	泉 恵一朗	腎泌尿器外科	591,172	補委	日本学術振興会 科研費
良性組織迷入に着目した口腔癌後発頸部リンパ節転移の解明	丸山 哲昇	歯科口腔外科	981,859	補委	日本学術振興会 科研費
うつからの回避的な認知・行動パターンによるうつ病の再分類と治療アプローチの開発	甲田 宗良	精神病態医学講座	614,741	補委	日本学術振興会 科研費
加齢による過活動膀胱への磁気刺激神経調整的新システムの確立-基礎-臨床的検討-	宮里 実	腎泌尿器外科学講座	1,333,076	補委	日本学術振興会 科研費
ロボットスーツHALを用いた転倒予防トレーニングの開発と有効性に関する研究	西村 正彦	脳神経外科学講座	365,868	補委	日本学術振興会 科研費
離島在住高齢者の生活の質および健康への家庭血圧データ転送システム導入の効果	大屋 祐輔	循環器・腎臓・神経内科学講座	1,721,373	補委	日本学術振興会 科研費
FGF21による食餌選択行動と脳内メカニズムの解明	岡本 士毅	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	1,341,264	補委	日本学術振興会 科研費
血中の内因性因子による皮膚の老化病態の解析と、その可逆性について	高橋 健造	皮膚病態制御学講座	700,000	補委	日本学術振興会 科研費
頭頸部癌多発地域での飲酒・喫煙に関する遺伝子多型の解析	山下 懐	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	1,988,984	補委	日本学術振興会 科研費
頭頸部扁平上皮癌におけるリゾフォスファチジン酸受容体の発現解析	又吉 宣	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	2,981,907	補委	日本学術振興会 科研費
頭頸部癌における低酸素誘導タンパク質の発現と高濃度酸素療法に関する研究	真栄田 裕行	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	2,652,107	補委	日本学術振興会 科研費
抗体医薬リツキシマブ投与によるインフュージョンリアクション発症メカニズムの解明	中村 克徳	薬剤部	1,230,000	補委	日本学術振興会 科研費
がん診療の質指標の評価結果をフィードバックすることで、診療の質の向上を図れるか？	増田 昌人	がんセンター	1,230,000	補委	日本学術振興会 科研費
肝細胞癌の高精度放射線治療効果を高めるための放射線性肝障害病態解明	岡田 真広	放射線診断治療学講座	496,920	補委	日本学術振興会 科研費

PC-cineMRIによる肺高血圧症の早期発見と治療効果判定法の確立	村山 貞之	放射線診断治療学講座	970,371	補委	日本学術振興会 科研費
神経膠芽腫に対する多剤併用分子標的療法の確立	渡邊 孝	脳神経外科	1,820,660	補委	日本学術振興会 科研費
高悪性度の前立腺癌に発現するマーカーの研究	齋藤 誠一	腎泌尿器外科学講座	1,380,208	補委	日本学術振興会 科研費
ヒト卵子形成および胚発生における卵胞液中・血中脂肪酸の影響	銘苺 桂子	周産母子センター	1,190,854	補委	日本学術振興会 科研費
積層化脂肪組織由来幹細胞シート移植による陳旧性顔面神経麻痺治療法の開発	清水 雄介	形成外科	627,444	補委	日本学術振興会 科研費
頭頸部微小癌を見逃さない:新規蛍光プローブによる微小癌同定法の確立	池上 太郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	1,642,278	補委	日本学術振興会 科研費
骨肉腫肺転移に関するマイクロRNAの検討	當銘 保則	高気圧治療部	1,123,108	補委	日本学術振興会 科研費
一酸化窒素合成酵素系完全欠損下の脳梗塞縮小現象と次世代治療確立への応用	久保田 陽秋	麻酔科	305,840	補委	日本学術振興会 科研費
口唇口蓋裂に関連する遺伝子と予防に関する研究-世界的に未報告のラオス人を中心に-	後藤 尊広	歯科口腔外科	2,233,700	補委	日本学術振興会 科研費
宮古島でのカポジ肉腫の高発原因:変異型HHV8と島民ゲノムの感受性変異の探索	眞島 繁隆	皮膚病態制御学講座	600,000	補委	日本学術振興会 科研費
4次元呼吸ダイナミックCTによる胸部の閉塞性・気道性疾患の病態解析	山城 恒雄	放射線診断治療学講座	1,959,143	補委	日本学術振興会 科研費
カベオリン1発現調節による固縮軽減の試み-ラット脊髄虚血モデルにおける検討-	神里 興太	麻酔科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会 科研費
腎癌血清で減少する糖蛋白の生物学的役割と臨床的意義	仲西 昌太郎	腎泌尿器外科学講座	1,371,463	補委	日本学術振興会 科研費
HPV関連頭頸部癌に対する新規分子標的薬の開発	近藤 俊輔	耳鼻咽喉科	1,549,720	補委	日本学術振興会 科研費
ヒト培養リンパ節の開発	山崎 俊	形成外科	2,263,682	補委	日本学術振興会 科研費
造血細胞移植に関わる新たなアロ免疫認識機構の解明	森島 聡子	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	3,000,000	補委	日本学術振興会 科研費
放射線治療患者における海馬機能強化法の樹立	石内 勝吾	脳神経外科学講座	11,600,000	補委	日本学術振興会 科研費

リーシュマニア症および シャーガス病の感染・病態 リスク評価系の構築	山本 雄一	皮膚科	200,000	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
日本人の人工弁置換術 後における抗血小板療法 の有効性および安全性に 関する臨床研究	國吉 幸男	胸部心臓血管外科学	300,000	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
現場に根ざした医療組織 倫理の構築に向けた基礎 的研究	金城 隆展	地域医療部	46,960	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
小児固形悪性腫瘍に対 する、免疫学的糖鎖解析 法を用いた新規診断シス テム法の開発	久田 正昭	第一外科	0	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
光感受性物質由来蛍光 の可視化を応用した加齢 黄斑変性の個別化医療の 確立	古泉 英貴	眼科学講座	151,681	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
OCT angiography とLSFG を用いた脈絡膜血流動態 メカニズムの解明	古泉 英貴	眼科学講座	200,000	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
Smad3部位特異的リン酸 化に着目した多発性嚢胞 腎における病態解明と治 療薬の開発	中西 浩一	育成医学講座	202,980	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
マイクロRNAに着目した IgA腎症病態生理に基づ く疾患特異的治療の開発	中西 浩一	育成医学講座	200,000	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
尿バイオマーカーによる 小児IgA腎症新規診断法 の確立	中西 浩一	育成医学講座	100,000	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
潜水・潜函作業現場にお ける酸素普及状況と減圧 障害予防効果の解明	合志 清隆	高気圧治療部	0	補 委	日本学術 振興会 科 研費(研究 分担者)
小児腎領域の希少・難治 性疾患群の診療・研究体 制の確立	中西 浩一	育成医学講座	300,000	補 委	厚生労働 省 科研費 (研究分担 者)
肝炎ウイルス検査受検か ら受診、受療に至る肝炎 対策の効果検証と拡充に 関する研究	前城 達次	第一内科	500,000	補 委	厚生労働 省 科研費 (研究分担 者)
成人の侵襲性細菌感染 症サーベイランスの構築 に関する研究	藤田 次郎	第一内科	500,000	補 委	厚生労働 省 科研費 (研究分担 者)
がん対策の進捗管理のた めの指標と測定の継続的 な発展に向けた研究	増田 昌人	がんセンター	500,000	補 委	厚生労働 省 科研費 (研究分担 者)

難治性聴覚障害に関する調査研究	鈴木 幹男	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座	500,000	補 委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
特発性大腿骨壊死症の医療水準及び患者のQOL向上に関する大規模多施設研究	仲宗根 哲	整形外科科学講座	200,000	補 委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究	健山 正男	第一内科	1,200,000	補 委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	我那覇 章	耳鼻咽喉科	4,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
ISO/TC249における国際規格策定に資する科学研究と調査および統合医療の一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究	廣瀬 康行	医療情報部	1,272,000	補 委	日本医療研究開発機構
新規バイオマーカーを用いたスコア法によるIgA腎症早期発見・早期診断を介した透析移行ゼロ化に向けた試み	古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	500,000	補 委	日本医療研究開発機構
HAMに対する日本発の革新的治療となる抗CCR4抗体の実用化研究	崎間 洋邦	第三内科	1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
治験の実施に関する研究 [PLD]	岩淵 成志	第三内科	1,199,100	補 委	日本医療研究開発機構
病理医不足を解決するWSIを用いた医療チームによるMedical Artsの創成研究	吉見 直己	病理診断科	800,000	補 委	日本医療研究開発機構
【沖縄感染症研究拠点形成促進事業(次世代ゲノム解析技術を応用した感染症診断システムの開発による沖縄型国際感染症研究拠点の基盤形成)】 呼吸器感染症診断におけるゲノム解析技術の臨床応用	藤田 次郎	第一内科	12,960,000	補 委	沖縄県
【沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業】 幹細胞創薬を目指した培養脂肪組織由来幹細胞(ADSCs)による再生治療法の開発	清水雄介	形成外科	2,161,178	補 委	公益財団法人沖縄科学技術振興センター(沖縄県再委託)
【先端医療実用化推進形成事業】 国際医療拠点を目指した琉球大学での再生医療基盤形成	藤田 次郎 清水 雄介	第一内科 形成外科	32,292,000	補 委	沖縄県

再生治療用ナノファイバー素材の開発と幹細胞抽出培養キットの開発	清水 雄介	形成外科	10,800,000	補 ○委	沖縄県
慢性腎臓病重症化予防のための多職種連携ビジュアルツールの開発	古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	5,000,000	補 ○委	公益財団法人沖縄科学技術振興センター(沖縄県再委託)
				補 委	

計 75件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績【総務第二係】平成29年度実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirai J, Sakanashi D, Huh JY, et al.	第一内科	The first human clinical case of chronic osteomyelitis caused by <i>Clostridium hydrogeniformans</i> .	Anaerobe. 2017 Jun; 45: 138-141	Case report
2	Nabeya D, Kinjo T, Parrott GL, et al.	第一内科	The clinical and phylogenetic investigation for a nosocomial outbreak of respiratory syncytial virus infection in an adult hemato-oncology unit.	Journal of Medical Virology. 2017 Aug; 89(8): 1364-1372	Original Article
3	Parrott G, Nebeya D, Kinjo T, et al	第一内科	Etiological analysis and epidemiological comparison among adult CAP and NHCAP patients in Okinawa, Japan.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2017 Jul; 23(7): 452-458.	Original Article
4	Nabeya D, Haranaga S, Parrott GL, et al	第一内科	Pulmonary strongyloidiasis: assessment between manifestation and radiological findings in 16 severe strongyloidiasis cases.	BMC Infectious Diseases. 2017 May 2; 17(1): 320	Original Article
5	Parrott G, Kinjo T, Nabeya D, et al	第一内科	Evaluation of Anyplex™ II RV16 and RB5 real-time RT-PCR compared to Seeplex(®) RV15 OneStep ACE and PneumoBacter ACE for the simultaneous detection of upper respiratory pathogens.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2017 Dec; 23(12): 859-861	Original Article
6	Hibiya k, Miyagi K, Tamayose m, et al	第一内科	Do infections with disseminated <i>Mycobacterium avium</i> complex precede Sweet's syndrome? A case report and literature review	International Journal of Mycobacteriology. 2017 Oct-Dec; 6(4): 336-343	Case report
7	Uechi K, Tada T, Shimada K, et al	第一内科	A modified carbapenem inactivation method, CIMTris, for carbapenemase production in <i>Acinetobacter</i> and <i>Pseudomonas</i> species.	Journal of Clinical Microbiology. 2017 Dec; 55(12): 3405-3410	Original Article

8	Uechi K, Tada T, Shimada K, et al	第一内科	Emergence of ArmA, a 16S rRNA methylase in highly aminoglycoside-resistant clinical isolates of <i>Klebsiella pneumoniae</i> and <i>Klebsiella oxytoca</i> in Okinawa, Japan.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2018 Jan; 24(1): 68-70	Original Article
9	Nahar S, Hokama A, Iraha A, et al	第一内科	Distribution of cytomegalovirus genotypes among ulcerative colitis patients in Okinawa, Japan.	Intestinal Research. 2018 Jan; 16(1): 90-98	Original Article
10	Arakaki S, Maeshiro T, Hokama A, et al	第一内科	Erratum for factors associated with visceral fat accumulation in the general population in Okinawa, Japan (World J Gastrointest Pharmacol Ther 2016; 7: 261-267).	World journal of gastrointestinal pharmacology and therapeutics. 2018 Feb 6; 9(1): 14-15	Original Article
11	Hirai J, Hagihara M, Haranaga S, et al	第一内科	Eosinophilic pneumonia caused by daptomycin: Six cases from two institutions and a review of the literature.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2017 Apr; 23(4): 245-249	Original Article
12	Tamaki K, Morishima S, Nakachi S, et al.	第二内科	An Atypical Case of Late-Onset Systemic Lupus Erythematosus with Systemic Lymphadenopathy and Severe Autoimmune Thrombocytopenia/Neutropenia Mimicking Malignant Lymphoma.	International Journal of Hematology. 2017 Apr; 105(4): 526-531	Case report
13	Kozuka C, Shimizu-Okabe C, Takayama C, et al.	第二内科	Marked Augmentation of PLGA Nanoparticle-Induced Metabolically-Beneficial Impact of γ -Oryzanol on Fuel Dyshomeostasis in Genetically Obese-Diabetic ob/ob Mice.	Drug Delivery. 2017 Nov; 24(1): 558-568	Original Article
14	Kozuka C, Kaname T, Shimizu-Okabe C, et al.	第二内科	Impact of Brown Rice-Specific γ -Oryzanol on Epigenetic Modulation of Dopamine D2 Receptor in Brain Striatum of High Fat Diet-Induced Obesity in Mice.	Diabetologia. 2017 Aug; 60(8): 1502-1511	Original Article
15	Nakachi S, Okada M, Morishima S, et al.	第二内科	Clinical Usefulness of FDG-PET/CT for the Evaluation of Various Types of Adult T-Cell Leukemia.	Hematology. 2017 Oct; 22(9): 536-543	Original Article
16	Okamoto S, Sato T, Tateyama M, et al.	第二内科	Activation of AMPK-Regulated CRH Neurons in the PVH is Sufficient and Necessary to Induce Dietary Preference for Carbohydrate over Fat.	Cell Reports. 2018 Jan; 22(3): 706-721	Original Article

17	Morishima S, Shiina T, Suzuki S, et al.	第二内科	Evolutionary basis of HLA-DPB1 alleles affects acute GVHD in unrelated donor stem cell transplantation.	Blood. 2018 Feb; 131(7): 808-817	Original Article
18	Matayoshi T, Kamide K, Tanaka R et al.	キャリア形成支援センター	Factors Associated with Outcomes of Percutaneous Transluminal Renal Angioplasty in Patients with Renal Artery Stenosis: A Retrospective Analysis of 50 Consecutive Cases.	International Journal of Hypertension. 2018 Jan; 2018:1952685	Original Article
19	Kohagura K, Kochi M, Miyagi T et al.	血液浄化療法部	Augmented Association Between Blood Pressure and Proteinuria in Hyperuricemic Patients with Nonnephrotic Chronic Kidney Disease.	American Journal of Hypertension. 2018 Mar; 31(4): 480-485	Original Article
20	Hayasaka K, Ishida H, Kimura R, et al.	第一外科	A new anatomical classification of the bronchial arteries based on the spatial relationships to the esophagus and the tracheobronchus	Surgery Today. 2017 Jul; 47(7): pp 883-890	Original Article
21	Kuninaka K, Takahashi R, Nakagawa Y, et al.	第一外科	A CASE OF HER2-positive male occult breast carcinoma with skin and lymph node metastases that exhibited complete response to trastuzumab monotherapy.	Clinical Case Reports. 2017 May; 5(5): 591-593	Case report
22	Hayasaka K, Ishida H, Kimura R, et al.	第一外科	Spatial relationships of the bronchial arteries to the left recurrent laryngeal nerve in the sub-aortic arch area.	Surgery Today. 2018 Mar; 48(3): 346-351	Original Article
23	Yamashiro S, Arakaki R, Kise Y, et al.	第二外科	Prevention of pulmonary edema after minimally invasive cardiac surgery with mini-thoracotomy using neutrophil elastase inhibitor	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2018 Feb 20; 24(1): 32-39	Original Article
24	Kuniyoshi Y, Inafuku H, Yamashiro S, et al.	第二外科	Direct reopening of the occluded hepatic veins of Budd-Chiari syndrome: verification of our operative method by the perioperative course of esophageal varices	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2018 Jan; 66(1): 27-32	Original Article
25	Kise Y, Kuniyoshi Y, Ando M, et al.	第二外科	Transapical aortic perfusion using a deep hypothermic procedure to prevent dissecting lung injury during re-do thoracoabdominal aortic aneurysm surgery	Journal of Cardiothoracic Surgery. 2017 May 19; 12(1): 32. (オンライン)	Case report

26	Nishimura M, Kobayashi S, Kinjo Y, et al.	脳神経外科学	Factors Leading to Improved Gait Function in Patients with Subacute or Chronic Central Nervous System Impairments Who Receive Functional Training with the Robot Suit Hybrid Assistive Limb	Neurologia medico-chirurgica. 2018 Jan; 58(1): 39-48	Original Article
27	Kiyuna T, Murakami T, Tome Y, et al.	整形外科	Analysis of Stroma Labeling During Multiple Passage of a Sarcoma Imageable Patient-derived Orthotopic Xenograft (iPDOX) in Red Fluorescent Protein Transgenic Nude Mice	Journal of Cellular Biochemistry. 2017 Oct; 118(10): 3367-3371	Original Article
28	Okubo H, Futenma C, Sunagawa H, et al.	整形外科	Very Distal Radius Wedge Osteotomy for Kienböck's Disease: Case Series.	the Journal of Hand Surgery Asian-Pacific Volume. 2017 Dec; 22(4): 490-496	Case report
29	Kanaya F	整形外科	Importance of orthopedic research and the 32nd Annual Research Meeting of the Japanese Orthopaedic Association.	Journal of Orthopaedic Science. 2017 Sep; 22(5): 807-808	Letter
30	Kanaya F	整形外科	The 20th Annual Meeting of the Japanese Research Society of Ultrasound Stimulation for Fracture Repair	Journal of Orthopaedic Trauma. 2017 Jul; 31(7): S1	Letter
31	Higa K, Kitamura N, Goto K, et al.	整形外科	Effects of osteochondral defect size on cartilage regeneration using a double-network hydrogel	BMC Musculoskeletal Disorders. 2017 May 22; 18(1): 210	Original Article
32	Tome Y, Uehara F, Kanaya F, et al.	整形外科	Comparison of "Dimensionality" of Cancer Cell Culture in Gelfoam® Histoculture and Matrigel.	Methods in Molecular Biology. 2018; 1760: 205-214	Original Article
33	Kiyuna T, Tome Y, Uehara F, et al.	整形外科	Tumor-targeting Salmonella typhimurium A1-R Inhibits Osteosarcoma Angiogenesis in the In Vivo Gelfoam® Assay Visualized by Color-coded Imaging.	Anticancer Research. 2018 Jan; 38(1): 159-164	Original Article
34	Wakayama A, Matsumoto H, Aoyama H, et al.	産科婦人科	Recurrent female adnexal tumor of probable wolffian origin treated with debulking surgery, imatinib, and paclitaxel/carboplatin combination chemotherapy: A case report.	Oncology Letters 2017 May; 13(5): 3403-3408	Case report

35	Kinjyo Y, Nagai Y, Toita T, et al.	産科婦人科	Concurrent weekly cisplatin versus triweekly cisplatin with radiotherapy for locally advanced squamous- cell carcinoma of the cervix: a retrospective analysis from a single institution.	Br J Radiol 2017 Aug; 90(1076): 20170241	Original Article
36	Wakayama A, Kudaka W, Nakasone T, et al.	産科婦人科	Secondary uterine carcinosarcoma after concurrent chemoradiotherapy for cervical cancer: Case reports.	Gynecol Oncol Rep 2017 Aug 17; 21: 81-83	Case report
37	Kozaki M, Sakuma S, Kudaka W, et al.	産科婦人科	Therapy-free interval has prognostic value in patients with recurrent cervical cancer following concurrent chemoradiotherapy.	Arch Gynecol Obstet 2017 Nov; 296(5): 997-1003	Original Article
38	Nitta H, Taira Y, Kinjo T, et al.	産科婦人科	Fetal thoracoamniotic shunting in a case of congenital pulmonary airway malformations with hydrops fetalis.	AJP Rep 2017 Jul; 7(3): e185-e187	Case report
39	Nagayama- Urasoe C, Umikawa M, Asato T, et al.	産科婦人科	Evaluation of candidate therapies using a patient-derived cervical cancer xenograft model.	Ryukyu Med J 36: 25-28, 2017	Original Article
40	Mekaru K, Oishi S, Akamine K, et al.	産科婦人科	Rectal injury by inserting a vaginal pipe for laparoscopic hysterectomy.	ARC J Gynecol Obstet 2 (2): 15-17, 2017	Case report
41	Kinjyo Y, Kudaka W, Toita T, et al.	産科婦人科	Vesicovaginal/rectovagi- nal fistula formation and outcome of stage IVA carcinoma of the cervix with radiotherapy.	Eur J Gynaecol Oncol 38 (6): 938-942, 2017 Nov	Original Article
42	Kudaka W, Nakasone T, Arakaki Y, et al.	産科婦人科	Adjuvant docetaxel and carboplatin chemotherapy for patients with FIGO stage I-III endometrial cancer.	Eur J Gynaecol Oncol 38 (6): 917-920, 2017 Nov.	Original Article
43	Kozaki M, Ooyama T, Kudaka W, et al.	産科婦人科	Prevalence of pulmonary embolism in gynecological cancer: the experience of a single tertiary center in Okinawa, Japan.	Eur J Gynaecol Oncol 2018 Jan; 39(1): 44-48	Original Article
44	Kinjo Y, Masamoto H, Nitta H, et al.	産科婦人科	Fetal sirenomelia associated with an abdominal cyst originated from a saccular cloaca.	Case Rep Obstet Gynecol. 2018 Mar 7; 2018: 7513287.	Case report
45	Chinen Y, Nakamura S, Ganaha A, et al.	小児科	Mild prominence of the Sylvian fissure in a Bainbridge-Ropers syndrome patient with a novel frameshift variant in <i>ASXL3</i> .	Clinical Case Repots. 2017 Dec; 6(2): 330-336 (オンライ ン)	Case report

46	Kinjo N, Hamada K, Hirayama C, et al.	小児科	Role of plasma exchange, leukocytapheresis, and plasma diafiltration in management of refractory macrophage activation syndrome.	Journal of Clinical Apheresis. 2018 Feb; 33(1) : 117-120	Case report
47	Awazawa R, Utsumi D, Katano H, et al.	皮膚科	High Prevalence of Distinct Human Herpesvirus 8 Contributes to the High Incidence of Non-acquired Immune Deficiency Syndrome-Associated Kaposi's Sarcoma in Isolated Japanese Islands	The Journal of Infectious Diseases. 2017 Oct; 216(7): 850-858	Original Article
48	Yamaguchi S, Miyagi T, Sogabe Y, et al.	皮膚科	Depletion of Epidermal Langerhans Cells in the Skin Lesions of Pellagra Patients	The American Journal of Dermatopathology. 2017 Jun; 39(6): 428-432	Original Article
49	Miyazato M, Kadekawa K, Kitta T, et al.	腎泌尿器外科	New Frontiers of Basic Science Research in Neurogenic Lower Urinary Tract Dysfunction.	Urology Clinic North America 2017 Aug; 44 (3): 491-505	Review
50	Hirakawa H, Hanai N, Suzuki H, et al.	耳鼻咽喉科	Prognostic importance of pathological response to neoadjuvant chemotherapy followed by definitive surgery in advanced oral squamous cell carcinoma	Japanese journal of clinical oncology. 2017 Nov 1;47(11):1038-1046	Original Article
51	Deng Z, Ikegami T, Kiyuna A, et al.	耳鼻咽喉科	Methylation of CpG sites in the upstream regulatory region, physical status and mRNA expression of HPV-6 in adult-onset laryngeal papilloma.	Oncotarget. 2017 Aug 3; 8(49): 85368-85377	Original Article
52	Ganaha A, Kaname T, Shinjou A, et al.	耳鼻咽喉科	Progressive macrothrombocytopenia and hearing loss in a large family with DIAPH1 related disease.	American journal of medical genetics. Part A. 2017 Oct; 173(10): 2826-2830	Original Article
53	Ganaha A, Tono T, Kaname T, et al.	耳鼻咽喉科	Suprameatal Cochlear Implantation in a CHARGE Patient With a Novel CHD7 Variant and KALLMANN Syndrome Phenotype: A Case Report.	Otology & neurotology. 2017 Aug; 38(7): 990-995	Case report

54	Kiyuna A, Kise N, Hiratsuka M, et al.	耳鼻咽喉科	Brain Activity in Patients With Adductor Spasmodic Dysphonia Detected by Functional Magnetic Resonance Imaging.	Journal of voice. 2017 May; 31(3): 379.e1-379.e11	Original Article
55	Kagawa S, Mihara K, Suzuki T, et al.	精神科神経科	Both Serum Brain-Derived Neurotrophic Factor and Interleukin-6 Levels Are Not Associated with Therapeutic Response to Lamotrigine Augmentation Therapy in Treatment-Resistant Depressive Disorder	Neuropsychobiology. 2018 Feb; 75(3): 145-150	Original Article
56	Tsubakimoto M, Yamashiro T, Tamashiro Y, et al.	放射線科	MRI findings and demographics of elastofibroma dorsi: assessment of diffusion-weighted imaging and contrast enhancement patterns.	Acta Radiologica. 2017 Jan 1;284185117732099. doi: 10.1177/0284185117732099. Article first published online: September 18, 2017 (オンライン)	Original Article
57	Iraha Y, Okada M, Toguchi M, et al.	放射線科	Multimodality imaging in secondary postpartum or postabortion hemorrhage: retained products of conception and related conditions.	Japanese Journal of Radiology. 2018 Jan; 36(1): 12-22.	Original Article
58	Azama K, Okada M, Yogi A, et al.	放射線科	Adrenal Venous Sampling in Patients with Primary Aldosteronism: Which Is the Best Evaluation Method for Laterality Assessments?	Open Journal of Radiology. 2017 Dec 1; 07(04): 219-227	Original Article
59	Xu Y, Yamashiro T, Moriya H, et al.	放射線科	Hyperinflated lungs compress the heart during expiration in COPD patients: a new finding on dynamic-ventilation computed tomography.	International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease. 2017 Oct 26; 12: 3123-3131.	Original Article
60	Hanashiro N, Yamashiro T, Iraha Y, et al.	放射線科	Non-traumatic rupture of the superior thyroid artery with concomitant parathyroid adenoma and multinodular goiter.	Acta Radiologica Open. 2017 Jul 27; 6(7): 2058460117722813.	Case report
61	Yamashiro T, Moriya H, Matsuoka S, et al.	放射線科	Asynchrony in respiratory movements between the pulmonary lobes in patients with COPD: continuous measurement of lung density by 4-dimensional dynamic-ventilation CT.	International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease. 2017 Jul 20; 12: 2101-2109.	Original Article
62	Iraha Y, Okada M, Iraha R, Azama K, et al.	放射線科	CT and MR Imaging of Gynecologic Emergencies.	Radiographics. 2017 Sep-Oct; 37(5): 1569-1586.	Original Article

63	Kusada T, Toita T, Ariga T, et al.	放射線科	Computed tomography- based image-guided brachytherapy for cervical cancer: correlations between dose-volume parameters and clinical outcomes.	Journal of Radiation Research. 2018 Jan 1; 59(1): 67-76.	Original Article
64	Maemoto H, Toita T, Ariga T, et al.	放射線科	Predictive factors of uterine movement during definitive radiotherapy for cervical cancer.	Journal of Radiation Research. 2017 May 1; 58(3): 397-404.	Original Article
65	Tsubakimoto M, Yamashiro T, Tamashiro Y, et al.	放射線科	Quantitative CT density histogram values and standardized uptake values of FDG- PET/CT with respiratory gating can distinguish solid adenocarcinomas from squamous cell carcinomas of the lung.	European Journal of Radiology. 2018 Mar; 100: 108-115.	Original Article
66	Hayashi M, Kakinohana M	麻酔科	Obstetric Anesthesia for a Pregnant Woman With Brainstem Cavernous Malformations: A Case Report.	Anesthesia and Analgesia Case Report. 2017 Jul 15; 9(2): 54-56	Case report
67	Izumi S, Higa- Nakamine S, Nishi H, et al.	麻酔科	Phosphorylation of epidermal growth factor receptor at serine 1047 in cultured lung alveolar epithelial cells by bradykinin B2 receptor stimulation.	Pulm Pharmacol Ther. 2018 Feb; 48: 53-61.	Original Article
68	Maruyama T, Nishihara K, Umikawa M, et al	齒科口腔外科	MicroRNA-196a-5p is a potential prognostic marker of delayed lymph node metastasis in early-stage tongue squamous cell carcinoma.	ONCOLOGY LETTERS. 2018 Feb; 15(2): 2349-2363	Original Article
69	Maruyama T, Nishihara K, Saio M, et al	齒科口腔外科	Kikuchi-Fujimoto disease in the regional lymph nodes with node metastasis in a patient with tongue cancer: A case report and literature review.	Oncology Letters. 2017 Jul; 14(1): 257-263	Case report
70	Maruyama T, Nakasone T, Nimura F, et al	齒科口腔外科	Indolent growth of low- grade myofibroblastic sarcoma of the cheek mimics benign lesions: A case report and literature review.	Oncology Letters. 2017 Jun; 13(6): 4307-4314	Case report
71	Nishihara K, Yoshimine SI, Goto T, et al	齒科口腔外科	Topographic analysis of the maxillary premolars relative to the maxillary sinus and the alveolar bone using cone beam computed tomography.	Oral Surgery Oral Medicine Oral Pathology Oral Radiology. 2017 May; 123(5): 606-612	Original Article

72	Kina-Tanada M, Sakanashi M, Tanimoto A, et al	歯科口腔外科	Long-term dietary nitrite and nitrate deficiency causes the metabolic syndrome, endothelial dysfunction and cardiovascular death in mice.	Diabetologia. 2017 Jun; 60(6): 1138-1151	Original Article
73	Maruyama T, Saio M, Arasaki A, et al	歯科口腔外科	Sarcoidosis of mediastinal lymph nodes mimicking distant metastasis of oral squamous cell carcinoma: a case report and review of literature.	International Journal of Clinical and Experimental Medicine. 2018 Mar; 11(3): 2698-2708	Case report
74	Matsuzaki A, Saio M, Kosuge N, et al.	病理診断科	Primary villoglandular mucinous adenocarcinoma of the vulva.	Case Reports in Pathology. 2017; 2017: 1765460. (オンライン)	Case report
75	Kosuge N, Saio M, Matsumoto H, et al.	病理診断科	Nuclear features of infiltrating urothelial carcinoma are distinguished from low-grade noninvasive papillary urothelial carcinoma by image analysis.	Oncology Letters. 2017 Sep; 14(3): 2715-2722. (オンライン)	Original Article
76	Uechi K, Tada T, Shimada K, et al.	検査・輸血部	Emergence of ArmA, a 16S rRNA methylase in highly aminoglycoside-resistant clinical isolates of Klebsiella pneumoniae and Klebsiella oxytoca in Okinawa, Japan	Journal of Infection and Chemotherapy. 2018 Jan; 24(1): 68-70	Case report
77	Uechi K, Tada T, Shimada K, et al.	検査・輸血部	A Modified Carbapenem Inactivation Method, CIMTris, for Carbapenemase Production in Acinetobacter and Pseudomonas Species	Journal of Clinical Microbiology. 2017 Dec; 55(12): 3405-3410	Original Article
78	Kohshi K, Morimatsu Y, Tamaki H, et al.	高気圧治療部	Cerebrospinal vascular diseases misdiagnosed as decompression illness: the importance of considering other neurological diagnoses.	Undersea & Hyperbaric Medicine. 2017 Jul-Aug; 44(4): 309-313	Original Article
79	Karube K, Enjuanes A, Dlouhy I, et al.	病理部	Integrating genomic alterations in diffuse large B-cell lymphoma identifies new relevant pathways and potential therapeutic targets.	Leukemia. 2018 Mar; 32(3): 675-684	Original Article
	Miyazato M, Tana T, Higa A, et al.	腎泌尿器外科	A questionnaire survey to assess lower urinary tract symptoms in patients with chronic stroke.	Neurourology Urodynamics 2017 Sep; 36 (7): 1890-1895.	Original Article
	Maeda H, Yamashiro T, Yamashita Y, et al.	耳鼻咽喉科	Lymphoepithelial carcinoma in parotid gland related to EBV infection: A case report.	Auris Nasus Larynx. 2018 Feb; 45(1): 170-174	Original Article

計 79 件

誤って昨年度報告済

誤って昨年度報告済

--	--	--	--	--	--

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

【総務第二係】平成29年度実績

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲, 学長・研究者等・研究代表者の責務, 倫理審査委員会の役割・責務, IC, 個人情報保護, 重篤な有害事象への対応, モニタリング及び監査 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 目的, マネジメント委員会の設置, 利益相反アドバイザー・利益相反カウンセラーの設置, 利益相反マネジメントの手続き, 外部からの指摘への対応, 秘密の保持 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容 学内の臨床研究教育管理センター教員を講師として個人情報保護法等の改正に伴う研究倫理指針の改正, 臨床研究法, 臨床研究の基本と研究倫理及び倫理指針等について講義を行った。 学外から講師を招聘し, 臨床研究の基本と留意点について講義を行った。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院の「病める人の立場に立った質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。」という理念のもとに、各診療科において専門的な分野の症例等に対する知識や技術、関連学会が定める専門医の資格取得に関する研修及び教育を実施している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 419.92人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
藤田 次郎	第一内科	教授	37年	
益崎 裕章	第二内科	教授	26年	
森島 聡子	第二内科	准教授	23年	
岩淵 成志	第三内科	准教授	32年	
古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	准教授	25年	
大屋 祐輔	第三内科	教授	36年	
崎間 洋邦	第三内科	助教	15年	
池宮城 秀一	第三内科	助教	15年	
新里 朋子	リハビリテーション部	特命助教	19年	
西巻 正	第一外科	教授	39年	
佐辺 直也	第一外科	助教	19年	
國仲 弘一	第一外科	助教	19年	
國吉 幸男	第二外科	教授	38年	
照屋 孝夫	第二外科	助教	25年	
仲柴真 盛保	第二外科	助教	23年	
永野 貴昭	第二外科	助教	24年	
石内 勝吾	脳神経外科	教授	33年	
金谷 文則	整形外科	教授	39年	
普天間 朝上	整形外科	助教	28年	
島袋 孝尚	整形外科	助教	14年	
當銘 保則	整形外科	講師	16年	
神谷 武士	整形外科	講師	18年	
仲宗根 哲	整形外科	講師	17年	
清水 雄介	形成外科	教授	19年	

青木 陽一	産科婦人科	教授	34年
正本 仁	産科婦人科	准教授	28年
銘苺 桂子	産科婦人科	講師	19年
中西 浩一	小児科	教授	29年
百名 伸之	小児科	講師	32年
知念 安紹	小児科	准教授	26年
吉田 朝秀	周産母子センター	講師	22年
金城 紀子	小児科	助教	30年
高橋 健造	皮膚科	教授	32年
山口 さやか	皮膚科	講師	14年
宮城 拓也	皮膚科	助教	11年
新嘉喜 長	皮膚科	助教	14年
眞鳥 繁隆	皮膚科	助教	13年
齋藤 誠一	腎泌尿器外科	教授	35年
宮里 実	腎泌尿器外科	准教授	25年
鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	教授	32年
酒井 寛	眼科	准教授	25年
近藤 毅	精神科神経科	教授	35年
村山 貞之	放射線科	教授	38年
垣花 学	麻酔科	教授	27年
淵上 竜也	麻酔科	診療准教授	24年
中村 清哉	麻酔科	准教授	25年
新崎 章	歯科口腔外科	教授	35年
吉見 直己	病理診断科	教授	35年
久木田 一朗	救急部	部長	31年
外間 昭	光学医療診療部	准教授	30年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

平成30年10月1日現在

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	藤田 次郎	
管理担当者氏名	総務課長 金城不二子、医療支援課長 高橋圭郎、検査・輸血部長 前田士郎、手術部長 鈴木幹男、放射線部長 村山貞之、安全管理対策室長 大屋祐輔、ME機器センター長 久木田一朗、薬剤部長 中村克徳、看護部長 大嶺千代美	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の第三項に掲げる事項	病院日誌 総務課	総務課	
		各科診療日誌 各診療科	各診療科	
		処方せん 薬剤部	薬剤部	
		手術記録 診療情報管理センター	診療情報管理センター	
		看護記録 診療情報管理センター	診療情報管理センター	
		検査所見記録 診療情報管理センター	診療情報管理センター	
		エックス線写真 放射線部	放射線部	
		紹介状 診療情報管理センター	診療情報管理センター	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 診療情報管理センター	診療情報管理センター	
				診療録に関することについては、「琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項」にて定められている。 。 処方せんは、外来は1週間単位、入院は病棟単位で綴り、薬剤部で保管。 。 病院情報システムで管理（手術記録、紹介状、入院診療計画書はH307/1より紙診療記録を電子化後原本とする）「スキャン要項」より
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿 人事第一係	総務課	
		高度の医療の提供の実績 医療支援課	医療支援課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績 経営管理課、総務第二係	総務課、経営管理課 各診療科	
		高度の医療の研修の実績 総務第二係	総務課、各診療科	
		閲覧実績 総務第二係	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績 医療支援課	医療支援課	
	掲げる事項	規則第一条の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 医療支援課、薬剤部	医療支援課、薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況 安全管理対策室	安全管理対策室
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 安全管理対策室	安全管理対策室
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 安全管理対策室	安全管理対策室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 安全管理対策室	安全管理対策室	
			各課・診療科・関連部署で適切に管理している。	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第三項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況 感染対策室	感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況 感染対策室	感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 感染対策室	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 感染対策室	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の配置状況 薬剤部	琉球大学医学部附属病院における医薬品安全管理実施要項
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 薬剤部	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 薬剤部	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 薬剤部	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況 ME機器センター	琉球大学医学部附属病院における医療機器安全管理実施要項
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 ME機器センター	ME機器センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 ME機器センター	ME機器センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ME機器センター	ME機器センター		

各課・診療科・関連部署
で適切に管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況 ME機器センター	琉球大学医学部附属病院における医療に関する安全管理規程
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況 感染対策室	琉球大学医学部附属病院における感染対策取扱要項
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況 薬剤部	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 診療情報管理センター	琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況 診療情報管理センター	琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項
		医療安全管理部門の設置状況 安全管理対策室	琉球大学医学部附属病院における医療に関する安全管理規程
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 医療支援課	琉球大学医学部附属病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 医療支援課	琉球大学医学部附属病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程
		監査委員会の設置状況 総務課	国立大学法人琉球大学医療安全監査規程
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 安全管理対策室	琉球大学医学部附属病院における医療事故等並びに死亡事例発生時の報告取扱要項
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 安全管理対策室	安全管理対策室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 安全管理対策室	琉球大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 総務課	琉球大学医学部附属病院における医療安全管理の適正な実施の疑義に関する情報提供に関する取扱細則
職員研修の実施状況 各診療科、中央診療施設等	各診療科、各中央診療施設等		

	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 総務第二係、安全管理対策室、薬剤部、ME機器センター	総務課、安全管理対策室、薬剤部、ME機器センター	
	管理者が有する権限に関する状況 総務課	総務課	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況 総務課	総務課	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況 総務課	総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	附属病院長 藤田 次郎		
閲覧担当者氏名	総務課長 金城 不二子		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 2階 小会議室		
閲覧の手続の概要			
閲覧の求めがあった場合、閲覧対応者が個別に対応する			

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>① 本院における安全管理に関する基本的な考え方</p> <p>② 医療に係る安全管理のための組織に関する基本的事項</p> <p>③ 医療に係る安全管理のための研修等に関する基本方針</p> <p>④ 本院における医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策にする基本方針</p> <p>⑤ 医療事故発生時の対応に関する基本方針</p> <p>⑥ 患者等に対する当核指針の閲覧に関する基本方針</p> <p>⑦ 患者等からの相談への対応等に関する基本方針</p> <p>⑧ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 安全管理の対策及び教育に関すること。</p> <p>(2) インシデント又は医療事故の判定に関すること。</p> <p>(3) リスクマネジメント・マニュアルに関すること。</p> <p>(4) 医療事故等が発生したときにおける事実確認、分析、調査検証等及び対策に関すること。</p> <p>(5) 医療事故等の分析等結果を活用した改善のための方策の立案、実施及び実施状況の確認等に関すること。</p> <p>(6) 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること。</p> <p>(7) 医事紛争が生じたときの拡大防止に関すること。</p> <p>(8) 訴提が提起されたときの対策に関すること。</p> <p>(9) 関係機関等への報告に関すること。</p> <p>(10) その他安全管理、医療事故等、医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>【指針テスト】平成29年9月26日 「医療安全に係る安全管理のための指針」</p> <p>【第1回】平成29年6月19日、6月29日・30日 「医療安全行動の推進に向けて」 講師：奥村 耕一郎（琉球大学医学部附属病院 安全管理対策室 副室長 准教授） 佐久川 卓（琉球大学医学部附属病院 薬剤部 主任） 神里 興太（琉球大学医学部附属病院 麻酔科 助教授） 雨田 立諭（琉球大学医学部附属病院 臨床工学技士）</p> <p>【第2回】平成29年12月15日 「チーム STEPPS研修」 講師：奥村 耕一郎（琉球大学医学部附属病院 安全管理対策室 副室長 准教授）</p> <p>【第3回】平成29年1月18日 「科学的事故調査の必要性」「ヒューマンエラーは低減できる！」 講師：河野 龍太郎（自治医科大医学部 行イノベーションセンター長 医療安全学教授）</p> <p>【第4回】平成29年2月9日 「よくわかる患者対応のコツ」 講師：瀧本 禎之（東京大学大学院医学部系研究科 准教授）</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- ① インシデントレポートやRMから直接または紙面による報告
- ② GRM、分析担当者、病院管理者による院内巡視
- ③ 当核部署及び関連部署からの聴取、カルテレビュー
- ④ 部門のミーティング等に参加
- ⑤ アンケート調査
- ⑥ 報道事例を基に、院内の現状把握と職員への周知
- ⑦ 委員会等 (看護師長会参加、安全RN委員会運営)
- ⑧ 災害対策関連WG、臨床倫理委員会、診療情報関連WG 参加

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>① 院内感染対策に関する基本的な考え方 ② 感染対策委員会の設置 ③ 感染対策室および感染対策実務者会議の設置 ④ 職員研修について ⑤ 院内感染発生状況及び抗微生物薬使用状況の把握と報告 ⑥ 院内感染発生時の対応 ⑦ 院内感染対策指針の閲覧に関する対応 ⑧ 院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 感染対策マニュアルの改訂・作成に関すること ② 耐性菌発生状況および対策に関すること ③ 希な耐性菌発生時の保健所との連携や感染対策に関すること ④ アウトブレイクの報告と対策に関すること ⑤ 感染対策研修会に関すること ⑥ ワクチン接種事業 ⑦ 抗体価測定事業 ⑧ 抗菌薬使用状況 ⑨ 血液培養陽性例の発生状況に関すること ⑩ 国公立感染対策協議会からの情報報告 ⑪ 地域連携施設との相互チェック結果と改善内容に関すること ⑫ インフルエンザ発生状況に関すること ⑬ 手指衛生遵守率向上に向けての活動報告 ⑭ 針刺し・切創・粘膜曝露発生報告</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>① 開催日：2017年5月29日 研修会名：第1回感染対策研修会「当院での抗菌薬適正使用活動・培養検体の採取と保存・手洗いの必要性について・指針テスト」 延べ参加人数：1528人</p> <p>② 開催日：2017年12月7日 研修会名：第2回感染対策研修会「ノロウイルス・季節性インフルエンザを防ぐために・流行性角結膜炎について」 延べ参加人数：1383人</p> <p>③ 開催日：2018年2月15日 研修会名：第3回感染対策研修会「院内感染対策事例」 延べ参加人数：425人</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>① 毎週ICTミーティングを開催し、耐性菌発生の状況や現在実施している感染対策に関する情報をICTで共有している。</p>	

- ② ICTメンバーで、アウトブレイクの情報と対策の状況について確認を行う。
- ③ 感染管理認定看護師にて日々の耐性菌分離状況を確認し、経路別予防策について病棟と情報共有を図っている。
- ④ 抗菌薬ラウンドをICDと薬剤師で実施し、抗菌薬適正使用に向けて活動を行っている。
- ⑤ 血液培養陽性例を確認し、他診療科医師へ抗菌薬使用に関して助言を行っている。
- ⑥ ICTにて病棟ラウンド(毎週1回)や中央部門(毎月1回)などのラウンドを実施し、環境対策について確認と指導を行っている。
- ⑦ 職業感染防止対策として、針刺し切創・粘膜曝露対応を行っている。
- ⑧ 手指衛生実施状況のサーベイランスを行っている。
- ⑨ SSI、CLABSI、VAEサーベイランスを実施している。
- ⑩ 感染対策の為の器機導入について検討を図る。
- ⑪ N95マスクフィットテストを結核患者をみる職員(呼吸器内科病棟、救急外来、救急病棟、血液浄化療法部、内視鏡室)とその他部署の希望者を対象に月に1回実施している。
- ⑫ 保健所からの耐性菌、ウイルス発生状況の確認

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況</p> <p>年 2 回</p> <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 平成29年度第1回 医薬品安全職員研修会 (合同) 日時：平成29年6月19日 (月) 17:30～18:30 場所：臨床講義棟2F大講義室、1F小講義室、 テーマ：医療安全行動の推進に向けて～ ②「持参薬を取り扱う際の注意と確認ポイント」 佐久川 卓 (琉球大学附属病院 薬剤部主任) 対象：全職員 *ビデオによる追加研修会 (6月29日、6月30日) 参加延人数：1424名/1804名</p> <p>2) 平成29年度第2回 医薬品安全職員研修会 (合同) 日時：平成30年1月18日 (木) 17:30～18:30 場所：臨床講義棟2F大講義室 演題：「医療安全とは何か」～ヒューマンエラーについて 講師：河野龍太郎 先生 対象：全職員 *ビデオによる追加研修会 (1月23日、1月31日) 参加延人数：1291名/1804名</p>	
<p>③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の採用と情報の作成・提供 ・ 医薬品の購入・発注・管理 ・ 調剤室における医薬品の管理 ・ 病棟・各部門への医薬品の供給 ・ 外来・入院患者への医薬品使用 (患者情報収集、処方、調剤、交付、指導) ・ 在宅患者への医薬品使用 ・ 病棟における医薬品の管理 ・ 医薬品の情報収集・管理・情報共有 ・ 手術・麻酔部門、救急部門・集中治療室の医薬品管理と使用 ・ 他施設との連携 	
<p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>平成30年1月に院内特殊製剤となる1%酸化亜鉛溶液の調整依頼が提出され、未承認新規医薬品等評価室で審議、承認後、使用された。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>1) 自動車運転に注意する薬剤リストの改訂 平成29年6月に自動車運転に注意する薬剤リストを最新の情報に改定し、電子カルテの院内掲示板に掲載した。</p> <p>2) 処方内容に関する疑義照会の情報共有 前回の業務手順書改定に伴い、「処方内容に関する疑義照会について」として適応外、禁忌を含む</p>	

疑義照会事例を平成29年10月と平成30年3月に各診療科、病棟にDI NEWSとして配布し、現在も継続している。

3) 薬剤マスター登録に関するインシデントへの対応

平成29年5月に医師からリフレックス錠30mgを院外で処方入力すると処方せんには15mgと印字されたとの連絡があった。確認したところ薬剤マスターにおいて処方箋への印字名称が誤って15mg錠で登録されていた。直ちに採用以降の全処方データを調査・対応した。本インシデントに対して、薬剤部では今後、登録担当薬剤師を複数とし他薬剤師がチェック後に登録用紙に押印、さらに副部長が最終確認をする運用に改善した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 182 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： 従事者に対する医療機器安全使用のための研修実施。人工呼吸器 血液浄化装置 人工心肺装置 PCPS IABP 除細動器 AED シリンジポンプ 輸液ポンプ及び新規導入機器の取り扱い安全研修を実施している 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る計画の策定 (有・無) 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>医療機器安全管理専門委員会において策定した点検計画に基づいて実施している。</p> <p>臨床工学技士は、適宜、メンテナンス講習を受講し、保守点検を行っている。ME機器管理システムは、ACEにて管理、大学病院内にて臨床工学室が管理している機器を日常点検、定期点検を実施している。臨床工学室で対応できない機器に関しては、メーカー保守点検を結び対応（メーカー対応機種は麻酔器、人工心肺装置、放射線関連装置等）としている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <p>厚生労働省のHPやPMDA, PMDAナビ及び各種学会からの情報収集やメーカーからの不具合情報をMEセンターで収集し、臨床工学室で共有、情報は該当機種か判断し、各部署に周知徹底している。重要事項に対しては臨床工学室長及び病院長に報告している。重要事項の必要度に応じてMEニュースを発行し、再研修や院内ラウンドし全職員に周知徹底している。勤務体系に合わせ個別対応も行っている。診療に支障が出ない範囲で、院内機器の統一化を図り取り扱いの煩雑さを軽減、ME機器の安全性を高めるように臨床工学室で取組んでいる。毎月 1 回医療機器安全管理専門委員会にてインシデント及びアクシデント点検修理状況、修理状況を周知し各部門が集まり対策を図っている。更に毎週月曜日に、特定機能カンファレンスにて医療安全管理室を中心として各部門が集まり対策している。</p> <ul style="list-style-type: none"> その他の改善のための方策の主な内容： 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>琉球大学医学部附属病院における「医療に係る安全管理のための指針」 イ. 医療に係る安全管理のための組織に関する基本事項 ・病院長は、本院における医療に関する安全管理を総括し、また、医療安全管理責任者を配置する。医療安全管理責任者は、病院長の指揮のもと「医療安全管理委員会」、「安全管理対策室」、「医薬品安全管理責任者」及び「医療機器安全管理責任者」を統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有（3名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報の収集は、主に医薬品担当薬剤主任がPMDA、厚労省、製薬会社等のHPや、MRからの通知文書、学会等の各種ガイドライン等から、また電子カルテ内の医薬品情報システム JUS-DI から収集・整理している。収集した各情報はDIニュースとして定期的に病棟、診療科に周知し、さらに周知確認を実施している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>処方に係る禁忌や適用外については、調剤時および病棟薬剤業務時に処方医に疑義照会し、その内容、結果を診療録に記録し、その情報を収集・分析し、医薬品安全管理者へ毎月報告している。また、DIニュースとして定期的に病棟、診療科に周知し、さらに周知確認を実施している。</p> <p>・担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/>有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部、職種 医薬品情報担当薬剤主任）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 <input checked="" type="checkbox"/>有・無</p>	

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
琉球大学医学部附属病院インフォームド・コンセントガイドラインに基づき、診療情報管理センター長（インフォームド・コンセント管理責任者）が全診療科の説明・同意書類の内容監査を実施している。その実施結果を各診療科に通知し指導を行い、各診療科が修正後に説明・同意書類を病院情報システムへ登録を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：
琉球大学医学部附属病院「診療記録監査要領」に基づき実施
量的監査実施：全入院患者を対象とし、毎週1回各診療科に「診療記録記載依頼票」を送付し記載内容改善の指導をしている。
質的監査実施：「質的監査評価票」を使用し監査チーム（各診療科医師18人+各部署6人）が、対象患者72名（全科、入院中患者を含む）を監査実施。診療情報管理センターへ報告後、各診療科に記載内容改善の指導をしている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（16）名
うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（8）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名
うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（3）名
うち臨床工学士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
うち事務：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（3）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) 安全管理対策に係る実施状況の調査及び把握に関すること。
- (2) 安全管理対策に係る職員等の教育研修の実施及び意識向上の状況の確認並びに具体的な指導方法に関すること。
- (3) リスクマネジメント・マニュアルの改正に関すること。
- (4) 医療事故等及び死亡事例に係る発生原因の調査、分析並びに関係部署に対する指導、助言に関すること。
- (5) 医療事故等及び死亡事例に係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関すること。
- (6) 医療事故等及び死亡事例発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関すること。
- (7) 医事紛争の原因の調査及び分析に関すること。

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 161 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 17 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 安全管理の対策及び教育に関すること。
 - (2) インシデント又は医療事故の判定に関すること。
 - (3) リスクマネジメント・マニュアルに関すること。
 - (4) 医療事故等が発生したときにおける事実確認、分析、調査検証等及び対策に関すること。
 - (5) 医療事故等の分析等結果を活用した改善のための方策の立案、実施及び実施状況の確認等に関すること。
 - (6) 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること。
 - (7) 医事紛争が生じたときの拡大防止に関すること。
 - (8) 訴提が提起されたときの対策に関すること。
 - (9) 関係機関等への報告に関すること。
 - (10) その他安全管理、医療事故等、医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（ （病院名：東京医科歯科大学） ・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ （病院名：島根大学） ・無）
- ・技術的助言の実施状況

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
琉球大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項
制定 平成 15 年 2 月 7 日（改訂 平成 28 年 9 月 27 日）

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- [具体的な内容]
- 新規採用職員オリエンテーション
 - ・医療安全の基本、安全管理のための指針テスト
 - ・感染対策の基本、標準予防策、ワクチンプログラム
 - ・医薬品安全使用の基本
 - ・医療機器の安全管理

[実施時期]

平成 30 年 4 月 2 日

[具体的な内容]

○(7部署合同)医療安全職員研修会
・高度新規医療技術・未承認新規医薬品等の
実施(使用)手続きについて

[実施時期]

平成 30 年 6 月 18 日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：

「特定機能病院管理者研修」公益財団法人 日本医療機能評価機構 平成 29 年 12 月 25 日・26 日

医療安全管理責任者：

「特定機能病院管理者研修」公益財団法人 日本医療機能評価機構 平成 30 年 2 月 21 日・22 日

医薬品安全管理責任者：

「特定機能病院管理者研修」公益財団法人 日本医療機能評価機構 平成 29 年 12 月 25 日・26 日

医療機器安全管理責任者：

「特定機能病院管理者研修」公益財団法人 日本医療機能評価機構 平成 29 年 12 月 25 日・26 日

「医療機器安全基礎講習会(ME 技術講習会)」公益財団法人 日本機器センター 平成 30 年 7 月 16 日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<ul style="list-style-type: none">・ 基準の主な内容<ul style="list-style-type: none">(1) 医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 10 条第 2 項の条件を満たす者(2) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者(3) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者とし、病院長候補者選考会議において、具体的な内容である病院長選考基準案を策定する予定である。（平成 30 年 10 月中を目標に病院長選考にかかる規程等を制定することとしている。）・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・<input type="checkbox"/>無）・ 公表の方法 大学のホームページで公表予定である。

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none">・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・<input type="checkbox"/>無）・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無）・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無）・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (・ 無 ※一部について)
- ・ 公表の方法
大学のホームページで公表「国立大学法人琉球大学規則集」

- ・ 規程の主な内容
予算執行の権限として「国立大学法人琉球大学会計規則」
人事権については、平成 30 年 10 月中を目標として「国立大学法人琉球大学組織規則」の改正を行い、管理者が病院の「管理運営に必要な人事権」を有することを明記する予定である。

- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
琉球大学医学部附属病院副院長及び病院長補佐に関する内規を改正し (平成 30 年 6 月)、副院長、病院長補佐の役割を以下のように明確化した。
○副院長は、次に掲げる病院長業務を分担する。
(1) 医療安全、(2) 診療、(3) 経営、(4) 教育研修、(5) 臨床研究、(6) 看護及び患者支援
○病院長補佐は、次に掲げる業務を分担する。
(1) 広報、(2) 研究倫理、(3) 臨床倫理、(4) 医療情報、(5) 遠隔医療、(6) その他病院長が必要と認める事項

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

特定機能病胃管理者研修、第 1 回病院経営次世代リーダー養成塾、第 1 回国立大学病院国際課担当者会議、広報活動に関する研修等

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>次に掲げる事項を審議する。</p> <p>病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査に関すること。</p> <p>安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>監査の実施に際して、病院の業務状況について病院長に報告を求め、又は必要に応じて自ら確認する。</p> <p>委員会は審議の結果に基づき、学長に是正措置を講じるよう意見を提出する。</p> <p>審議の結果及び前述の意見を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>大学公式ホームページおよび病院公式ホームページでの公開</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗原 慎太郎	長崎大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
赤嶺 真也	赤嶺法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
儀間 小夜子	NPO 法人こども医療支援わらびの会		医療を受ける立場にある者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
矢野 恵美	琉球大学大学院法務研究科		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3
嘉目 克彦	琉球大学		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3

(様式 6-3)

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
監事、監査室、大学本部総務部による監査及び調査がなされ、改善を要する事項については、
現在でも改善要求や指導がなされている。
今後は、このたびの省令改正を踏まえ、監査室に病院にかかる各種法令の適合を確保するた
めの体制強化が検討される予定である。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無 ※監査室)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
国立大学法人琉球大学監事監査規則
国立大学法人琉球大学内部監査規則
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法
大学のホームページで公表

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none">・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会で病院にかかる予算執行状況や経営状況について年に4回程報告を行うこととしている・ 今後、役員会を病院の管理運営状況を監督する会議体と位置づけ、その体制整備を図り、経営等にかかわらず、管理運営全般を監督できるよう検討していく。・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（ 年 回 ） 管理者が出席する体制とする。・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）・ 公表の方法 大学のホームページで公表することを検討する。			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 周知の方法 ホームページ及び電子カルテポータルシステムのお知らせ

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 病院機能評価 (3rdG:Ver1.1) 平成27年4月23日・24日受審 認定第 J C 509-3号 平成27年5月30日～平成32年5月29日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 【広報手段】 ・病院ホームページ，病院情報誌ホットライン，大学院・医学部・附属病院概要などで広報活動を行っている。 【広報内容】 ・病院指標（年齢階級別退院患者数、診断群分類別患者数 等） ・診療科部等の紹介 ・職員，専門医，認定医等の紹介 ・特集記事 （インフルエンザ・不眠症・鬱病などの病気に関することや，新規導入機器・施設等の紹介） ・イベント案内 など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 *周術期の患者に対し、歯科口腔外科と手術を実施する診療科が連携して外科手術後の合併症予防のための口腔機能管理を行っている。 *複数診療科にまたがる手術を要される患者に対し、手術実施診療科だけでなく病理医も含め合同でカンファレンスを行うなど、連携して対応にあたっている。 *精神科入院患者で、身体疾患を併せ持つ患者に対して、精神科と精神科以外の診療科が連携し、必要に応じて精神科以外の診療科への入院受け入れが可能な体制となっている。	

(様式第 8)

琉大医総第 1210号
平成30年10月 4日

厚生労働大臣 殿

琉球大学医学部附属病院長
藤田 次 郎

琉球大学医学部附属病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 2 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 4 論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由
平成28年度実績 64件 ・病院運営委員会、臨床教授会及び医局長会で特定機能病院承認要件をクリアするため英語論文数の増について周知する。 ・英語論文を執筆した医師又は診療科に対するインセンティブを付与する旨、検討を開始する。 戦略的経営企画会議（7/24開催）にて、英語論文を執筆した医師又は診療科に対するインセンティブを付与する旨、検討を開始することが了承された。	平成29年度実績 79件

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第 8 として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

--

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。

